

櫻茶屋ものがたり

- 店名の由来 1910年代(大正はじめ頃)祖父が創業した料理屋の名前は花川屋というそうです。祖父は帝国ホテルで修行を積んだ当時としては珍しい洋食の料理人でした。現在の塙町で独立開業。祖母は白河の出身です。山の寺の近くで生まれ育ったと聞いております。
- 1920年代 父が赤ちゃんの頃、塙で洪水があり、花川屋が流されてしまったそうです。流された家の中に父が居て、すんでのところで助けられたということです。途方にくれていた時に、援助してくださる方がおられて、再開したお店の名が『花屋』といいます。花川屋が川に流されて『花屋』となった。災い転じての心境であったかと思われまます。
- 1940年代 長男だった父は、和食の板前の修業に出されます。はじめは東京銀座あたりでしたが、先輩の助言もあり『和食は関西』という一念で、単身、大阪へ向かったそうです。父のカタミの包丁には、大阪の包丁カジと名字の早田が刻まれています。
- 1950年代 私が生まれた頃、日本の国力は敗戦からキセキ的な復興を果たし、まさに高度成長期へ突入せんとする時代でありました。その頃は、家業も発展し同じ家に住みながら父母の顔をまともに見れぬぐらい忙しい時期でありました。
- 1970年代 私は末っ子ではありますが、幼い頃から父の働く姿を見て育ち、料理する父の姿を『カッコイイ！！』と思いつけて育ちました。見よう見まねで料理を作ったことを懐かしく思います。
- 1980年代 父は和食でしたが、私が板前になりたいと告白した時、洋食の料理人はつぶしが利くからといわれ、洋食の料理人になりました。今思えば、本当は父も洋食の料理人になりたかったのかも...。また祖父はあの当時では洋食で苦労したから、父には正統な和食の道を歩ませたかったのかも。今になってお互いの思いが理解できるような気がします。
- 1986年 念願叶ってこの白河で独立開業することができました。店名は、『花屋 白河店』としたのですが、昔カタギの父は、『若い2人が自分達の手で新たに開く店なのだから』と言ってくれました。『花は櫻』開業した場所は白一小の目の前で、花見坂、月見坂、雪見坂の頂にあったので『櫻茶屋』と名付けました。
- 1996年 現在地、白河市みさかに移転。おもしろいでしょう？前の店は、はなみさか、つきみさか、ゆきみさかの頂でした。今は、正真正銘、みさかの櫻茶屋です。